interactive Program Guide

G PRESS

2007. June / Vol.50

© 2007 Interactive Program Guide Inc. all rights reserved

genius
今月のGな人

ヤフー株式会社
メディア事業部　プロデューサー
川邊 健太郎さん

放送コンテンツと通信コンテンツは、どう連携していくのか、していかないのか。

ポータルサイトとして、コンテンツアグリゲータとして、日本では揺るぎないポジションを築いた『Yahoo! JAPAN』。ソフトバンクの携帯電話事業展開、Googleの台頭、ゲーム機等通信端末の多様化、放送のデジタル化…といった激動の時代の中で、巨人『Yahoo! JAPAN』は、いったい何を考え、どのような方向に進もうとしているのだろうか。オフラインコンテンツとオンラインコンテンツの連携・融合ということにテーマをしぼりつつ、『Yahoo! JAPAN』および今後の通信業界の短中期的な展望について、ヤフー株式会社で携帯コンテンツやヤフー・ニュース等をプロデュースしてきた川邊健太郎さんにお話をうかがってみました。

ーポータルサイトとしてのYahoo! JAPANは、今後どのような進化を考えているのでしょうか。

いまのキーワードのひとつは、「オープン化」ということです。Yahoo! JAPAN内ですべての情報やサービスを提供する必要はなく、外のサイトにもどんどんリンクさせていこうという考え方です。少し前までは、できる限りYahoo! JAPAN内で提供する情報やサービスを充実させ、ユーザのYahoo! JAPAN滞在時間を少しでも長くしたいという考え方でしたが、それが少し変わってきたということです。理由は、お客様メリットの追求ということに尽きます。ユーザは、Yahoo! JAPANの情報やサービスを望んでいるのではなく、Yahoo! JAPANを通じて全世界の中から自分が欲しい情報やサービスを望んでいるわけですから。たとえば、いま私が関わっている『ヤフー・ニュース』では、〈記事内リンク〉を始めました。今までは、記事のテキストだけが掲載されていたのですが、記事内からさらに他のサイトの関連記事や写真、データ等にリンクするようになっています。

ーこの『G-PRESS』本年2月号でGoogleの方にインタビューをした際、Googleのミッションは「世界中の情報をオーガナイズして、世界中の人々に届けること」だとおっしゃっていました。それと比べて、Yahoo! JAPANは、どう違うのでしょうか。

使命としては、私たちもGoogleさんと共通のところはあります。そもそも、インターネットの本質は「ハイパーリンク」ということですから。ただ、Googleさんとの違いは、「私たちは手足が長い」ということでしょうか。たとえば、お客様が検索した後、どこまでフォローしてあげるか、そのお客様が欲しい情報にたどり着くまでどこまでナビゲートしてあげるかという点で考えた場合、私たちのほうがサービスに対する保証範囲が広いと言えると思います。「お客様のユーティリティを上げることが価値を高めていくことである」という考え方では、Googleさんも私たちも同じでしょうが、対象としているお客様の範囲が違います。私たちは、老若男女問わずあまねく人たちに対するユーティリティを考えているという点では、比較的マスメディアに近いかもしれません。

ー「放送と通信の連携」という点について、両者のボーダーは今後どのように変化していくと思われますか？

どんどんボーダーレスになっていくと思いますね。といいますか、私たちがボーダーレスにしていくというのではなく、勝手にどんどんそうなっていくと思います。最近の「動画コンテンツ」のブレイク状況を見ればわかるように、連携や融合、分離とかいう現象は「世の中の必然的なムーブメント」として起きていくことですから。私たちは、あくまでお客様が望むことを提供することが使命ですから、たとえば「放送と通信の連携」という現象によって、お客様に新しい要望・需要が生まれれば、それを満たすようなサービスを追及していくということです。御社が提供する電子番組表、『Gガイド』もそのひとつと言えるでしょう。「インターネットでテレビ番組情報を手に入れたい」というお客様の需要は必ずあるわけで、だから、御社の提供するサービスにも積極的に取り組んでいきたいと考えているわけです。

ーボーダーレスになっていく放送と通信。とはいえ、それぞれに「得意」「不得意」というものがあると思いますが。

そうですね。通信が、現状「得意」だといえるのは、〈検索〉と〈インタラクティブ〉です。〈検索〉という機能の結果、ロングテールといったそれまでなかった情報価値を持つコンテンツやビジネスが出現しました。〈インタラクティブ〉という機能の結果、ブログをはじめとする「ソーシャルメディア」といったものが出現し、大きな影響力を持つようになりました。この2つの機能においては、現状、通信が得意としていますが、あくまでも「現状」です。すでにワンセグ携帯やゲーム端末等で起きているように、これから、放送と通信は、コンテンツ面でどんどん連携・融合していくでしょう。私たちも、これからは、放送メディアのような「プッシュ型」のコミュニケーションも強化していきたいと考えています。また、単に存在する情報を提供するだけでなく、そこに「インテリジェンス」「カスタマイズ」といった価値を加えていくことも求められており、このことは、いわゆる〈編成〉〈編集〉といったオフラインコンテンツが行ってきたコンテンツプロデュースに近いことです。「これはオンラインで、これはオフラインで」などと言っていられなくなる時代が、すぐそこに来ていると思います。

ー本日は、貴重なお話をありがとうございました。今後とも、パートナーとしてよろしくお願いいたします。

こちらこそ、よろしくお願いいたします。

今月のGワード groovy word

RSS

ウェブサイト上のニュースやブログなどの更新情報を簡単にまとめ、配信するための〈文書フォーマット〉の総称。現在広く使われているRSSのバージョンは、RSS0.91，RSS1.0，RSS2.0の3種類があり、それぞれ正式名称は異なる。RSS0.91では「rich site summary」、RSS1.0では「RDF（resource description framework）site summary」、RSS2.0では「really simple syndication」の略称をRSSとしている。日本においては、普及しているRSSのほとんどがRSS 1.0を用いているため、一般には、RSSはRDF Site Summaryとして認識されている。
RSSを使った情報配信の例としては、新聞社のニュース配信サイト、テレビ局・ラジオ局における番組情報、各種企業におけるプレスリリースや新製品情報、サポート情報等がある。RSSに対応しているウェブサイトではRSSに対応していることを明確にするために RSS 、XML などの画像が使われていることが多い。

G-PRESSは、G-GUIDE を提供する株式会社インタラクティブ・プログラム・ガイド(IPG)が制作・発行しています。

『Gガイド』は、Gemstar-TV Guide International, Inc.またはその関連会社の日本国内における登録商標です。
Yahoo!とYahoo!のロゴマークは、米国ヤフーの登録商標または商標であり、ヤフー株式会社はこれらに関する権利を保有しています。
『Google』『グーグル』は、Google Inc.の商標または登録商標です。
記載されている会社名、製品名は各社の商標、または登録商標です。

Data Watching

Yahoo! JAPANから読み解ける最新世相

日本人のほとんどが利用する検索サイト「Yahoo! JAPAN」。しかし、ほとんどのユーザは、「Yahoo! JAPANの利用価値」のほんの一部しか知らず、Yahoo! JAPANの活用術を紹介する書籍もたくさん出版されているほど。今回のData Watchingでは、そんな「Yahoo! JAPANの利用価値」の一部を紹介したいと思います。

●検索ワードランキングから、世の中が見える

Yahoo! JAPANは、日本のインターネット人口の約９割が検索サイトとして利用しています。したがって、「Yahoo! 検索」の検索ワードランキングを見ることによって、世の中の話題や関心事の最新情報がひと目でわかります。当データから、テレビ放送の影響力が絶大であることもわかります。

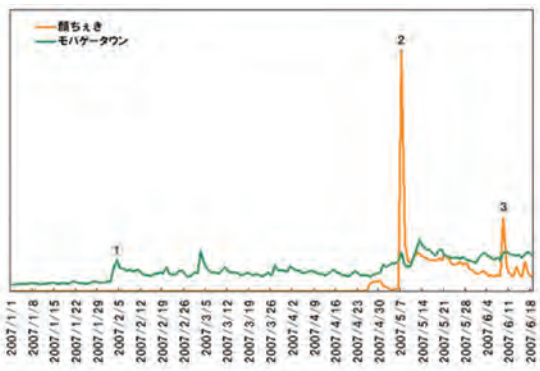
●Yahoo!サーファーのグラフで読み解くトレンド

グラフは、「Yahoo! サーファー」に掲載されている、今年初めからの〈モバゲータウン〉と〈顔ちぇき〉の検索推移データ。それぞれが、どんなブレークポイントを経て現在に至っているのかが、ひと目でわかります。ここでもまた、テレビ放送の影響力が絶大であることがわかります。

6/11～17【Yahoo! 検索ワードランキング】

順位	キーワード	ポイント
1位	丸山弁護士　行列	100.0
2位	ニフニフ動画	84.2
3位	レジスタンス-人類没落の日	73.2
4位	宮崎あおい　結婚	70.6
5位	ジュビロ磐田　菊地	54.5
6位	三枝幹直	54.0
7位	近江由希子	53.1
8位	中澤裕子　ジャニーズ	45.9
9位	石井希和アナウンサー	45.8
10位	遠応寺	35.2

【『モバゲータウン』と『顔ちぇき』】



①〈モバゲータウン〉テレビＣＭ放映開始。
→会員数300万人突破

②〈顔ちぇき〉フジ「めざましテレビ」で紹介される

③〈顔ちぇき〉テレ朝「検索ちゃん」で紹介される

出典：「Yahoo! 検索」より

いちばん思い出に残っているテレビ番組 Vol.16

「竹中直人の恋のバカンス」

昔から、世の女子が夢中になっているような番組やドラマを集中してみることはあまりない人でした（笑）。よくあるパターンは、深夜番組流しっぱなし→いつの間にかおやすみなさい…。この深夜のながら視聴、ここでの衝撃の出会いが『竹中直人の恋のバカンス』でした。1994年7月から1995年1月まで放送されていた深夜番組で、竹中直人、ビシバシステム（住田隆&ふせえり）、温水洋一、片桐はいり、元YMO高橋幸宏が準レギュラーだったりと、シュールなメンバーが出演し、マニアを超えたコントを連発。

ひときわ異彩を放つ、とにかく衝撃的な番組でした。
ナンセンスでいまだに印象深いシーンが多い番組でしたが、特にピカイチは竹中直人扮する「ナンの男」（両肩からナンをぶら下げて登場するだけ）。「ナンの男が、都内のドブ川をただ流れていく」シーンだったり、片桐はいりのめちゃくちゃな発音の英会話教室だったり、やること成すこと、とにかく意味がない･･･。でも、いまだに姉妹の会話のネタになっているほど脳裏に焼きついて離れません。（昨年DVD-BOXが発売されたのですが、長時間まとめて見ると夢に出てきそうなので、少し見合わせています！）
昔からテレビ番組を見て、わからないことがあれば辞書を引き、地図帳を調べたりするのがクセで、やはりそのツールは時代と共にインターネットになりました。「DOGATCH」というサイトづくりに関わり、情報を求める側の人間だった私が、発信する側になった今、当時はクチコミで友人に伝えていたこと、いいと思ったもの、面白いと感じたことを、インターネットを通じて広く伝えて行けたらと思っています。

株式会社プレゼントキャスト
「WOMAN.DOGATCH」編集長
奥江　幸代

読書タイム

犬と笛〈五〉

芥川龍之介

それから髪長彦は、二人の御姫様と三匹の犬とをひきつれて、黒犬の背に跨がりながら、笠置山の頂から、飛鳥の大臣様の御出になる都の方へまっすぐに、空を飛んでまいりました。その途中で二人の御姫様は、どう御思いになったのか、御自分たちの金の櫛と銀の櫛とをぬきとって、それを髪長彦の長い髪へそっとさして御置きになりました。が、こっちは元よりそんな事には、気がつく筈がありません。ただ、一生懸命に黒犬を急がせながら、美しい大和の国原を足の下に見下して、ずんずん空を飛んで行きました。

その中に髪長彦は、あの始めに通りかかった、三つ叉の路の空まで、犬を進めて来ましたが、見るとそこにはさっきの二人の侍が、どこからかの帰りと見えて、また馬を並べながら、都の方へ急いでいます。これを見ると、髪長彦は、ふと自分の大手柄を、この二人の侍たちにも聞かせたいと云う心もちが起って来たものですから、

「下りろ。下りろ。あの三つ叉になっている路の上へ下りて行け。」と、こう黒犬に云いつけました。

こっちは二人の侍です。折角方々探しまわったのに、御姫様たちの御行方がどうしても知れないので、しおしお馬を進めていると、いきなりその御姫様たちが、女のような木樵と一しょに、逞しい黒犬に跨って、空から舞い下って来たのですから、その驚きと云ったらありません。

髪長彦は犬の背中を下りると、叮嚀にまたおじぎをして、

「殿様、私はあなた方に御別れ申してから、すぐに生駒山と笠置山とへ飛んで行って、この通り御二方の御姫様を御助け申してまいりました。」と云いました。

しかし二人の侍は、こんな卑しい木樵などに、まんまと鼻をあかされたのですから、羨しいのと、妬（ねた）ましいのとで、腹が立って仕方がありません。そこで上辺はさも嬉しそうに、いろいろ髪長彦の手柄を褒め立てながら、とうとう三匹の犬の由来や、腰にさした笛の不思議などをすっかり聞き出してしまいました。そうして髪長彦の油断をしている中に、まず大事な笛をそっと腰からぬいてしまうと、二人はいきなり黒犬の背中へとび乗って、二人の御姫様と二匹の犬とを、しっかりと両脇に抱えながら、

「飛べ。飛べ。飛鳥の大臣様のいらっしゃる、都の方へ飛んで行け。」と、声を揃えて喚きました。

髪長彦は驚いて、すぐに二人へとびかかりましたが、もうその時には大風が吹き起って、侍たちを乗せた黒犬は、きりりと尾を捲いたまま、遥な青空の上の方へ舞い上って行ってしまいました。

あとにはただ、侍たちの乗りすてた二匹の馬が残っているばかりですから、髪長彦は三つ叉になった往来のまん中につっぷして、しばらくはただ悲しそうにおいおい泣いておりました。

すると生駒山の峰の方から、さっと風が吹いて来たと思いますと、その風の中に声がして、

「髪長彦さん。髪長彦さん。私は生駒山の駒姫です。」と、やさしい囁きが聞えました。

それと同時にまた笠置山の方からも、さっと風が渡るや否や、やはりその風の中にも声があって、

「髪長彦さん。髪長彦さん。私は笠置山の笠姫です。」と、これもやさしく囁きました。

そうしてその声が一つになって、

「これからすぐに私たちは、あの侍たちの後を追って、笛をとり返して上げますから、少しも御心配なさいますな。」と云うか云わない中に、風はびゅうびゅう唸りながら、さっき黒犬の飛んで行った方へ、狂って行ってしまいました。

が、少したつとその風は、またこの三つ叉になった路の上へ、前のようにやさしく囁きながら、高い空から下して来ました。

「あの二人の侍たちは、もう御二方の御姫様と一しょに、飛鳥の大臣様の前へ出て、いろいろ御褒美を頂いています。さあ、さあ、早くこの笛を吹いて、三匹の犬をここへ御呼びなさい。その間に私たちは、あなたが御出世の旅立を、恥しくないようにして上げましょう。」

こう云う声がしたかと思うと、あの大事な笛を始め、金の鎧だの、銀の兜だの、孔雀の羽の矢だの、香木の弓だの、立派な大将の装いが、まるで雨か霰のように、眩しく日に輝きながら、ばらばら眼の前へ降って来ました。

※〈六〉に続く。

運用管理ユニット　**澤口　征也**

I am iPG

ＩＰＧを影で支える運用管理ユニットの澤口征也と申します。日夜、ユーザの皆様にＧガイドを提供する為、がんばっております。仕事は主にパネル広告とトピックスの登録管理を行っており、ユーザの方がご覧になる部分を担当しておりますので、日々緊張の連続です。最近ではＧガイドモバイルも担当しており、ちょっと前までは待ち受け専用だった携帯が、通話にアプリにと３キャリアの携帯を使いこなす、ちょっとした携帯マニアになっております。最後に、Ｇガイド受信機をお持ちの方は是非、パネル広告とトピックスをご覧になってみてください、きっと新しい発見があります。